



## ライバルは「夢の国」

8月も下旬になると、朝夕の日差しが少し柔らかくなったような気がしますが、それでも昼間は真夏のような暑さが続いています。子どもたちには、学校生活に慣れるまでは、しばらく熱中症への警戒を怠らないようにしてほしいと思います。

さて、今日から2学期です。楽しい思い出をたくさん作って、いよいよ再開する学校を楽しみにしていた子も多いでしょう。しかし、中には、もっと夏休みが続いてほしいなと思って、登校することをしんどく感じている子がいるかも知れません。

かつて私が、学級担任を始めた頃の話です。ある日、子どもたちと「毎日行くのならば、学校と遊園地とどっちがよいか？」という話をしました。(ここからは、当時の雰囲気再現するために、コテコテの関西弁を交えてお届けします。)

ほとんどの子が「そなん遊園地に決まってるやんか。」と答えましたが、私はそれに対して「いやいや、学校やで。」と真っ向から反論しました。その言葉にキョトンとする子どもたちに、畳みかけるように続けました。「遊園地は、たまに行くから面白いんやで。もし、遊園地に毎日行ったら、最初は楽しいかも知れんけど、だんだん飽きてくるって。なんぼジェットコースターが好きな子でも、6年間毎日同じのんに乗ったら、絶対飽きるわ。あれは、たまに乗るからおもしろいねんで。」「それに対して、学校はどう？毎日のように来てても飽きへんやろ？毎日同じこともするけど、いろんなことが起きるやんか。昨日と今日では全然違うやろ。楽しいことばかりやないかも知れんけど、毎日来ても飽きへんという点では、遊園地に勝ってるで。」と、何故か勝ち負けの話にしながら、学校優位論を展開しました。

それでも遊園地の方がいいという子どもたちが多いので、「遊園地は入るのに入場料いるけど、学校来るのはタダやで。」と値段勝負に出ました。子どもたちは、「そなん当たり前やんか。」とロクに言いましたが、「お金払って楽しいのは当たり前やろ。学校は遊園地みたいにお金はいらんけど、毎日いろんなことできるねんで。まあ、お金の代わりに宿題やってくるとか、持ち物持ってくるとかの入場料はもらうけどな。でもその結果、楽しいだけやなく、かしこくなったり、できることが増えたりするんやから、めっちゃめっちゃお得やん。やっぱり学校の勝ち！」と勝手に学校勝利を宣言しました。

子ども相手に熱弁を振るい、すっかり論破したと思った私ですが、ある子が「でも先生、どう考えたかって、やっぱりディズニーランドには負けてるで。」と言ったことで形勢は一気に逆転。その意見にクラスみんなが大賛成の拍手をしたので、この議論はあっけなく終わりました。



そもそも学校と遊園地では目的が違うので、どちらが良いかを比べるのはナンセンスだとは思いますが、それでも、学校は考えようによっては遊園地以上に楽しめる場所かも知れません。しかし、それには、遊園地のように、楽しませてもらうのではなく、自分で楽しもうとする気持ちが必要です。また、学校で得る楽しさの中には、単純な快樂ではなく、充実感や達成感を伴うものがたくさんあります。ですから、時には楽しさを味わうためにしんどさを乗り越えなければならない場合もあるでしょう。だから学校で得る楽しさには、他では味わえない良さがあるのだと思います。

2学期は、1年間で一番長い学期です。学校には、遊園地のように楽しい乗り物や素敵なパレードはありませんが、子どもたちにとって「行かなくてはいけない場所」ではなく「行きたいと思える場所」になるように、我々教職員も一生懸命取り組んでいきたいと思っています。どうぞ、今学期もご理解とご協力をよろしくお願いします。

## 林間学習はなぜ2泊3日なのか



7月28日～30日の2泊3日で、今年も5年生を対象に、ハチ高原で林間学習を実施しました。昼間は日の当たるところでは、太陽を近くに感じるくらいとても暑かったのですが、朝晩は涼しく、明け方には20℃くらいまで下がる日もありました。空ではヒバリがさえずり、林ではヒグラシが鳴く様子は、やはり山ならではの、という感じでした。

ところで最近、これまで2泊3日だった林間学習を1泊2日に短縮する学校が増えてきている、という話を耳にするようになりました。

そもそも林間学習は、なぜ2泊3日なのでしょう。もちろん、自然の中でたくさん体験活動をさせたいという理由が大きいです。また、天候に恵まれない時には、3日あればプログラムを入れ替えながらやりくりできる利点もあります。しかし、何よりも、子どもたちが3日もの間濃い集団生活をすることによって、友だちと協力しながら自ら考え自ら行動する力をつけるという教育的価値の大きさは見逃せません。事実、今年の5年生の子どもたちも、3日間で大きく成長しました。何度も振り返りながら反省を次に生かし、1日目よりも2日目、そして3日目とだんだん成長する姿は素晴らしく、帰校時には顔つきまで変わったように思えました。

しかし、そうした成長は、学級・学年の先生方がこういう子どもに育てたいという明確な指導の方針とそれに応える子どもたちの力があるからこそ表れるものなのです。ただ予定されたプログラムをこなすだけでは、ここまでの成長は見られないでしょう。また、林間学習だけでなく、そこに至るまでの毎日の学校での取り組みが土台になっていることは言うまでもありません。



今のところ、本校が来年度の林間学習の日程を短縮する予定はありません。でも、今後、子どもたちが2泊3日の宿泊行事に体力的・精神的に耐えられないと判断すれば、教育的価値の見直しが必要になるかも知れません。そうならないためにも、子どもたちには、せめて自分のことは自分でできるように力をつけておいてほしいと思っています。